

第30回佐賀県総合教育会議

高校生が納得できる進路選択のために

学校現場の「進路指導」、その言葉、当たり前に使ってるけど...

先生は生徒に対して...

国公立大学を
優先して勧めているの？

総合型選抜よりも、
一般選抜の
対応を重視しているの？

地元の大学等よりも
県外の大学を
優先して勧めているの？

短大・専門学校等よりも、
4年制大学
を優先して勧めているの？

専門学科・総合学科高校
では、進学に関する情報提供
はどんな感じ？

「進路指導」の現場では...

進学先の偏差値って、
1年次でも重要視され
ているの？

進学先の提案って
やっているの？
どういうタイミング？

こんな声も...

親身になって相談に
のってもらったなあ

進路に悩んでいる生徒へ
は、どう対応しているの？

卒業生の声とかも
教えてもらえるの？

実際どうなの？



県教育委員会の取組

進路指導は“オーダーメイドの伴走支援”

○進路は、生徒の将来、生徒の生き方につながるもの

何を重視するか、やりたいことは何か、どんな人生を送りたいか など

○高校に入学した時点で、進路目標がはっきりしている生徒もいれば、漠然としている生徒もいる

“何となく大学進学” “将来、何をしたいのかわからない” “環境を変えてみたい”

“できれば現役で合格” “理数系が苦手だから文系” “保護者は近くを望んでいる”



○生徒の進路選択をサポートする教員の思い

- ・ 答えは「生徒自身」にしかない、大切なのは“納得出願”
- ・ 目標が早く決まる方が望ましいが、悩むのは当然だし、悩んでいい
- ・ 一人一人が納得して進路を決める手助けを、担任・学年・学校全体で、チームで支える

異なる背景・状況での個別対応

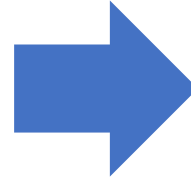
“〇〇優先？〇〇重視？”

国公立大学優先？	(考えられる要因) ● 生徒・保護者の国公立志向 ・九州各県では地元の国立大学が県内トップの意識 ・国立大学は定員が少なく、きめ細かな指導をしてもらえるという印象 ・国公立大学は私立大学よりも学費が安い（特に理系私大は国公立大の約2倍） 【実態】 1年→3年で国公立大学を志望する生徒は減少する
県外優先？	(考えられる要因) ● 県内の大学・短大は学部・学科の幅が狭い（文系は文・商、理系は歯・薬がない） ・生徒は学部・学科の選択と並行して、保護者とともに現実的な所在地を考える傾向 【実態】 1年→3年で県内・近隣県を希望する生徒は増加する
4年制大学優先？	(考えられる要因) ● 価値観の変化 【実態】 一定数は短大・専門学校に進学（実践的な学び、早く社会に出るメリット）
一般選抜重視？ 共通テスト重視？	(考えられる要因) ● 国公立大学は一般選抜の枠の方が多い ● 総合型選抜の難易度は様々（一般選抜も視野） ● 私大の入試問題と共通テストの傾向に違いが出ている ・共通テスト利用で戦略的に私大出願 【実態】 ・一般選抜（共通テスト）は保険的な側面もある ・私大専願者、総合型第一志望者には、個別に対策

進路指導の事例発表

<高校1～2年>

- ・英語が得意、数学は苦手
- ・文系を選択
- ・外国語を学べる4年制大学を志望



<進路決定>

- ・理学療法士を目指して
国立大学医学部保健学科へ進学

<ポイント>

○将来を意識するタイミング・きっかけには個人差がある

→生徒が自分事として、調べ学習や面談等に取り組めるよう声かけ

→納得感のある進路目標を設定できるよう二者面談・三者面談等を通して引き出す

(例) 医療に関わる仕事の多様性、文系科目で挑戦できる学科があることを知り、生徒が進路目標を変更

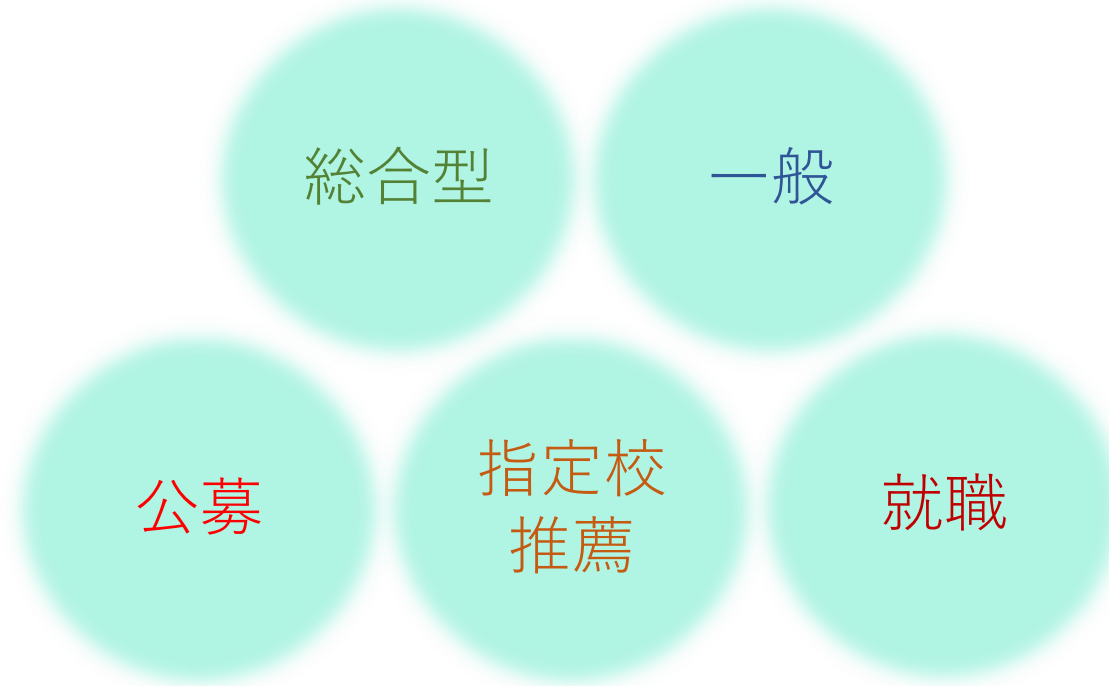
○進路目標に向けた道のりは必ずしも平坦ではない、いかに最後まで頑張ってもらうか

→生徒の葛藤や悩みを受け止め、時には保護者との橋渡し役も担う

→チームで生徒の状況を共有・分析し、一人一人に応じたアドバイス

(例) 複数の教員で情報共有しながらサポート、伸びているところを具体的にほめて支える

進路の選択は様々・・・



多様な選択肢から
生徒自身が進路を決める

etc...

「自分で自分のことを決められる子ども」へ

生徒の力を信じ、伸びを支える